

令和4年度

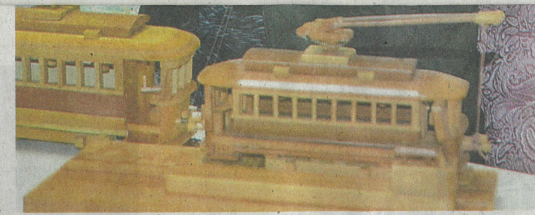
地年度京都新聞福祉賞10時から京都新聞文芸部の思いを紹介する。

選考委員 (敬称略)

川村妙慶・真宗大谷派僧侶
小山隆・同志社大教授
城貴志・NPO法人滋賀県社会就労事業振興センター理事長
永田朋・京都市子育て支援総合センターこどもみらい館館長
森田美千代・一般社団法人京都障害者スポーツ振興会副会長

「京都新聞福祉奨励賞」

一緒に活動



育てたい」とし、ろうあ運動の発展を願う。
仲間や妻靖子さん(83)への感謝は深い。「1人では何もできなかった」。手話にひときわ力を込めた。(84歳、亀岡市)

特別養護老人ホームなどの建設事業だ。募金活動に走り回る中でつれない対応を味わいつつも同志と前へ進んだ。ホームでは今、聴覚障害者と地元高齢者が過ごし、「共生社会の姿がそこにある」と喜ぶ。
「変な人」と手話を笑われた時代に比べれば社会の理解は広がった。だが、手話教育の拡充や手話言語法の制定など進められるべき課題は山積みという。「若い人を

心豊かな未来のための力に

える場作り



「ふらっと」の名称通り、月に1度のサロンは予約不要。夫をがんで亡くした副代表の大嶋公代さん(69)「福知山市」は「これからも変わらず、苦しむ人が語り合える場を作っていきたい」とほほ笑む。(京都市右京区)

はじめ、友人や医療・宗教関係者など幅広い。
「治療法の選択は正しかったのか」「もっとできたことがあったのでは」。毎回10人ほどが集まり、後悔の思いが語られる。参加者は決して否定せず、それぞれの悲嘆に耳を傾ける。「同じ経験をした人が一緒に涙を流す。『私だけじゃない』と感じてもらえたら」と竹内さんは話す。

福祉奨励賞 2団体

ボランティアサークルHarmony

滋賀県立大(彦根市)の学生が2003年に立ち上げ、自閉症スペクトラム障害やダウン症などの子どもや青年たちを支援している。油絵の創作や茶道体験などをする月1回の定例活動や、近隣での野外活動、宿泊体験などを行ってきた。



障害者と油絵の創作活動をするHarmonyのメンバーら (彦根市内)

学生たちは「無理なく楽しく」をモットーに活動。22年の代表の池山理帆さん(21)は「障害者たちが楽しみ、また来たいと思われる空間を作り、メンバーと互いに成長する相乗効果を生み出したい」と語る。
初めて接する障害者との向き合い方に悩むこともあるが、保護者の助言を受けながら関係を築く。うまくコミュニケーションが取れたり、個性を生かした絵の完成を目の当たりにし、喜びを感じる。活動を機に保育士や特別支援学校の教諭などに就くメンバーもいる。

コロナ禍で、オンラインでクリ

スマスコンサートを開くなど工夫が続く。23年代表の西村侑花さん(19)は「油絵を紹介する展覧会の開催やグッズ販売などにも力を入れ、ハーモニーの活動を発信したい」と話す。(彦根市)

障害者とメンバーが共に成長

ハンド&ネイルケアボランティアチーム ガンチー

高齢者向け施設や介護予防サロンを訪問し、無料でネイルアートを行う。指先がカラフルに変化していくにつれ、「普段無口な人も、楽しそうにおしゃべりしてくれるのがうれしい」と代表の松本知美さん(38)。仕事を持つ約20人のスタッフと活動し、本年度は1200人以上に施した。

3年前、「人の役に立ちたい」と趣味を生かして福祉ネイリストの資格を取った。知人のついでで施設訪問するうち、当事者が笑顔になると介護者の気持ちもほぐれるということに魅力を感じ、2020年4月に団体を設立した。

ネイルは有償が多い中、どんな状況の人にも受けてほしいと無料にこだわり、材料費は企業や団体の寄付でまかなう。協賛社探しの苦労も「活動を知ってもらえる機会」と前向きだ。
過酷な介護現場で、福祉ネイルが少しでも明るく照らす光になれ



ガンチー代表・松本知美さん(京都市中京区・京都新聞本社)

介護の現場明るく照らしたい

ばと願う。「スタッフを増やして多くの施設を訪問したい。いろいろな地域で活動する団体が生まれるよう、認知度も高めたい」(京都市左京区)

あす贈呈式

【講評】選考者
京都府聴覚障害者協会などの福祉賞と福祉奨励賞の重複障害者授産施設や聴議を重ねました。長年の建設運動をけん引するな1個人1団体に福祉開かれ、福祉向上に貢献された。励賞を贈ることを決めたサロン「ふらっと」は、10年以

上にわたって、がんて大切な人を亡くした人のグリーフサポートを實踐されてこられた。他の患者会や公的支援機関などと連携をとり、重要な活動を継続されている。
【福祉奨励賞】
ハンド&ネイルケアボランティアチーム ガンチーは、高齢者や障害者施設に訪問して、無償のハンド・ネイルケア活動を

実践されている。ネイルシールを活用した防犯や防火活動に取り組みなど、ユニークで今後の展開にも期待したい。
ボランティアサークルHarmonyは、大学生のボランティアが集まり、20年近くにわたって先輩から後輩へ引き継ぎ、障害児・者の余暇活動支援に取り組んでおられる。若い世代の福祉への理解を深める場となっている。